

第 29 回生活科学系コンソーシアム会議議事録

日時：2019 年 12 月 21 日（土）11：00～12：40

場所：日本女子大学目白キャンパス百年館 5 階 504 会議室

出席者：（敬省略）

生活科学系コンソーシアム構成学会より 計 12 名

国際服飾学会	佐々井啓
日本衣服学会	阿部栄子
日本家政学会	綾部園子
日本家庭科教育学会	赤塚朋子
日本食品衛生学会	高野伊知郎
日本食生活学会	佐々木弘子
日本調理科学会	三宅裕子
服飾文化学会	大網美代子
日本繊維製品消費科学会	大矢 勝
生活経済学会	倉田あゆ子
日本保育学会	波多野名奈
日本健康心理学会	山蔦圭輔

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 10 名

小川宣子、塚原典子、多屋淑子、重川純子、守隨香、倉持清美、鈴木恵美子、
宮野道雄、片山倫子、都築和代

欠席者：構成学会

日本消費者教育学会、日本食品科学工学会、日本健康医学会、日本健康科学学会

欠席者：日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 6 名

香西みどり、工藤由貴子、藤原葉子、永富良一、熊谷日登美、薩本弥生

配布資料

資料 1. 出席名簿

資料 2. 生活科学系コンソーシアム第 28 回議事録（案）

資料 3. 第 8 回生活科学系コンソーシアムシンポジウム要旨集

資料 4. 第 11 回生活科学系博士課程論文発表会

資料 5. 構成学会の会長及び連絡係の氏名および連絡先一覧

議題

- (1) 生活科学系コンソーシアム第 28 回会議議事録（案）の承認 資料 2
議事録案について、資料のとおり承認された。
- (2) 第 11 回生活科学系博士課程論文発表会について（守随委員） 資料 4
資料 4 をもとに、博士課程論文発表会の日時、開催場所（2020 年 3 月 24 日（火）共立女子大学 2 号館）が説明された。発表申込書の裏面に指導教員の承諾を確認する項目を設けることが提案された。書式の末尾に指導教員の承諾の有無欄を設けた。2018 年度・2019 年度の課程博士の学位取得者および、取得予定者が対象。既に構成学会等にはメールで案内済み。
- (3) 第 8 回シンポジウムについて（小川会長） 資料 3
「まとうこと」をメインテーマとし、各構成学会の視点を発揮できるシンポジウムを開催する。シンポジウム後に懇親会を開催。
今後もシンポジウムに関しては、開催案内や内容などを情報共有のため、各構成学会においては会誌への掲載や ML での連絡をお願いしたい（「まとうこと」のシンポは 12 月 21 日開催の内容なので）。
- (4) 第 13 回生活科学系コンソーシアム総会開催日程について（小川会長）
小川会長より、来年度の総会が 2020 年 5 月 12 日（火）、17 時から日本学術会議で行われること、各構成学会の会長および連絡係の 2 名で出席してほしいことが伝えられ、承認された。

報告

- (1) 第 24 期日本学術会議健康・生活委員会家政学分科会の報告（小川会長）
 - ・第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会
日本学術会議公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティーに関する課題と今後の展望」への後援は、先回の会議で各構成学会に後援依頼をお願いしたが、家政学系組織である生活科学系コンソーシアムに依頼があったため変更したい旨、説明がなされ、了解を得た。
- (2) 日本学術会議健康・生活科学委員会、家政学分科会からの報告
 - ・被服分野 WG（多屋委員）
資格士として衣料管理士を取り上げて検討してきた。現在、提言をまとめている。
 - ・免許外教員 WG（倉持委員）
免許外担任についてまとめている。研修の制度化等を提言として提案予定。
 - ・科研費 WG（鈴木委員）
キーワードの検討を実施する。
 - ・住分野 WG（宮野委員）
建築関係の資格を検討、建築士・住教育との有るべき姿をまとめている。今後、提言、

シンポジウムを予定。

- ・生涯学習 WG (重川委員)

WG のメンバーを拡充し、継続して検討する予定である。

- ・児童分野 WG (守隨委員)

家政学において児童分野があることの意味など、次回の日本家政学会に間に合えば、シンポジウム開催を検討中。

- ・食分野 WG (小川会長)

管理栄養士の役割について健康教育への関わりと管理栄養士の質の向上に向けて提言を作成し、4~5月に表出を予定している。シンポジウムを開催し、内容について意見の聴取も予定している。

(3) その他

- ・会計担当より、各構成学会からの年会費の振込みに対して、御礼が述べられた。
- ・会員・連携会員の推薦について、改選の趣旨と問題点が述べられた。

(4) 構成学会からの報告

出席した構成学会の代表から、各学会が今取り組んでいる活動内容について紹介された。

- ・国際服飾学会

会員の減少、他分野や人文系から服飾史の分野に参入してくる例が見られる。会員 170 名。

- ・日本衣服学会

衣食住、教育、環境など専門とする会員で構成。若い会員の入会を望んでいる。会員 180 名。

- ・日本家政学会

家政学会としての活動の他、部会活動が有り、研究活動のバランスが難しい。会員数は減少傾向。各セミナーの実施。横断した分野での活動もある。少人数部会では、存続が大変。会員 2389 名。家庭生活アドバイザー資格取者数は、年々、増加している (約 50 名)。

- ・日本家庭科教育学会

新学習指導要領のもとで、授業時間数、家庭科の時間数を増やすには、教員を増やす必要がある。特に家庭科においては、教員養成学部の縮小が大きい。会員 880 名。

- ・日本食品衛生学会

食の安全面を重視。会員は 1,300 名 (半減している)。会員のほとんどは社会人。新たな食をめぐる課題はあるが、消費者の意識がついてこない。オリンピック、国際化に絡んで活動は活発化すると思われる。管理栄養士による食生活支援が必要である。

- ・日本食生活学会

今年、30 周年記念で、会員は 700 名。終身会員、名誉会員が増加。学生会員が増えない。

- ・日本調理科学学会

会員は 1,800 名。数年前に 50 周年を迎えた。学生会員が一定数ある。年 1 回の総会、全国に 6 つの部会、学会誌年 6 回。現状の問題点は、事務局に確認して、後日、連絡。

- ・服飾文化学会

今年 20 周年、専門領域で今後の課題について歴史的な面を含めて服飾文化を検討している。領域によっては次の専門家が育たないことが、課題になっている。作品発表の場はあるが、工学的、数的な点は少ない。他学会と情報共有をしたい。会員は 240 名。

- 日本繊維製品消費科学会

9 月に国際シンポを開催し、469 名の参加を得た。会員が 726 名、70 団体が会員になっているが、将来が不安。工学的な部分が主なので、学術発表の場や論文発表の場としての力は少ない。イベントを中心に、企業が協力して、学術を産業界にフィードバックを広げていく。各分野がバラバラだと弱いので、総合的な力となれればと考えている。

- 生活経済学会

1985 年設立。会員は 600 名弱。地方部会 7 部会、そこでも活発な発表会などを開催。学会が掲げる課題については、後日、報告する。学会での論文誌以外に生活経済学会編で書籍を出版している。国連で採択された SDGs との関連も実施していきたい。

- 日本保育学会

大会としては 73 回を開催、会員は 8,000 名で増加中。保育園、幼稚園、地域の子育て支援の人たちにも会員になっている。会員数が増え、問題も生じている。大会開催が難しい。事務的な手続きが煩雑化、外部に頼むとトラブルが増え、学会として留学する人を支援している。現場の会員が増えてきている。

- 日本健康心理学会

会員 1,700 名。健康維持増進予備が課題であり、専門性が多様である。健康心理学のプロパーが少ない。健康心理学とは何か。学会の魅力と会員の確保が課題。健康心理士の資格認定制度を有する。

以上